

# 平成12年3月期決算付帯資料

## 連結

### (1) 連結事業別売上高

(単位 百万円)

区 分	11年度	前期比(%)	12年度予想	前期比(%)
	(売上構成比)		(売上構成比)	
セル フメ ディ ケー ション 事業	OTC等	+27.2	204,400 (72.9%)	+ 2.3
	家庭用品および 公衆衛生用剤	- 4.7		
	その他	- 0.7	1,600 (0.5%)	-10.8
	(小 計)	+25.2	206,000 (73.4%)	+ 2.2
医薬 事業	医療用	+ 4.1	60,000 (21.4%)	+ 1.5
	その他	+27.5	8,400 (3.0%)	- 0.2
	工業所有権等 使用料収入	-17.7	6,100 (2.2%)	- 1.8
	(小 計)	+ 4.0	74,500 (26.6%)	+ 1.0
合 計	+18.7	280,500 (100.0%)	+ 1.9	

### (2) 連結設備投資他

(単位 百万円)

	10年度	11年度	12年度予想
設備投資	15,707	6,991	25,500
減価償却	14,800	15,421	15,400
研究開発費 (売上比率)	20,095 (8.7%)	23,238 (8.4%)	28,000 (10.0%)
広告宣伝費	17,977	19,866	20,200
販売促進費	17,310	19,090	20,300

( 3 ) 連結設備投資の内訳

( 単位 億円 )

	1 0 年度	1 1 年度	1 2 年度予想
大宮工場	67	32	90
羽生工場	-	-	-
岡山工場	5	1	75
総合研究所	53	12	30
その他	32	24	60
合計	157	69	255

( 4 ) 連結売掛金滞留期間等

	1 0 年度	1 1 年度
売掛金滞留期間	3 . 1 ヶ月	2 . 5 ヶ月
売上債権滞留期間	3 . 4 ヶ月	2 . 8 ヶ月
流動比率	514.9%	556.7%

( 5 ) 連結金融収支

( 単位 百万円 )

	1 0 年度	1 1 年度	1 2 年度予想
	2,984	4,283	4,700

( 6 ) 連結売上原価率

	1 0 年度	1 1 年度	1 2 年度予想
	27.3%	25.7%	26.0%

( 7 ) 従業員数の推移 ( 海外 )

1 1 年 3 月末	1 2 年 3 月末
4,982人 (284人)	5,005人 (305人)

## 単独

### (1) 単独OTC等主要製品売上高

(単位 億円)

薬効群		11年度	前期比	12年度予想	前期比
計		1,955	+386(+24.6%)	2,000	+45(+2.3%)
内 訳	1. ドリンク剤	1,055	+121(+13.0%)	1,150	+95(+9.0%)
	リポビタミンシリーズ	972	+135(+16.1%)	1,060	+88(+9.1%)
	・リポビタミンD	773	+157(+25.5%)	860	+87(+11.3%)
	・その他リポビタミン	199	-22(-9.9%)	200	+1(+0.5%)
	ゼナシリーズ	58	-16(-21.6%)	65	+7(+12.1%)
	アルフェその他	25	+2(+8.7%)	25	±0(-)
	2. かぜ薬	277	+7(+2.6%)	277	±0(-)
	3. 胃腸薬	54	-3(-5.3%)	53	-1(-1.9%)
	4. リアアップ等	297	+297(-)	250	-47(-15.8%)
	5. その他	272	-36(-11.7%)	270	-2(-0.7%)

### 単独リポビタミンD チャンネルカテゴリー別売上高

(単位 億円)

	11年度	前期比	12年度予想	前期比
既存チャンネル	533	-69	530	-3
新チャンネル	240	+226	330	+90
計	773	+157	860	+87

### 単独当期主要発売品

発売日	製品名	薬効
1999年6月	リアアップ	ヘアケア
1999年7月	リポビタミンGX	ドリンク剤
1999年8月	ゼナシャイン	ドリンク剤
1999年8月	アルフェEX	ドリンク剤
1999年8月	パブロン<レモン>、<生姜>	感冒薬
1999年9月	ナリッシュシリーズ2品	スキンケア
2000年1月	リポビタミンJr.	ドリンク剤
2000年1月	リポビタミンDライト	ドリンク剤
2000年2月	ダマリンパウダースプレー	水虫薬

( 2 ) 単独医療用主要製品売上高

(単位 億円)

製 品 名		11年度	前期比	12年度予想	前期比
計		591	+24(+ 4.2%)	600	+9(+ 1.5%)
内        訳	1.クラリス	230	+17(+ 8.0%)	236	+6(+ 2.6%)
	2.パルクス注	200	±0( - )	194	-6(- 3.0%)
	3.ソロン	40	-1(- 2.4%)	37	-3(- 7.5%)
	4.メトリジン	27	±0( - )	26	-1(- 3.7%)
	5.リーマス	23	+1(+ 4.5%)	24	+1(+ 4.3%)
	6.バイオペックス	-	-	16	+16( - )
	7.リンラキサー	16	+1(+ 6.7%)	15	-1(- 6.3%)
	8.ヒカミロンディスポ	11	+1(+10.0%)	10	-1(- 9.1%)
	9.アルボ	10	±0( - )	9	-1(-10.0%)
	10.パンドル	9	±0( - )	9	±0( - )
	11.メタルカプターゼ	8	±0( - )	8	±0( - )
	12.その他	17	+5(+41.7%)	16	-1(- 5.9%)

( 3 ) 単独設備投資他

(単位 百万円)

	10年度	11年度	12年度予想
設備投資	15,294	6,071	25,000
減価償却	14,482	15,033	15,000
研究開発費 (売上比率)	20,095 (8.8%)	23,237 (8.6%)	28,000 (10.1%)
広告宣伝費	17,453	19,634	20,000
販売促進費	17,027	18,849	20,000

( 4 ) 単独金融収支

(単位 百万円)

10年度	11年度	12年度予想
2,537	3,771	3,800

( 5 ) 単独工業所有権等使用料収入

( 単位 百万円 )

10年度(増減額)	11年度(増減額)	12年度予想(増減額)
7,622(-364)	6,280(-1,342)	6,100(-180)
レート差 +293	レート差 -975	レート差 -318
取引量差 -657	取引量差 -367	取引量差 +138
(128.3円/ドル)	(110.7円/ドル)	(105円/ドル)

( 6 ) 単独輸出比率

10年度	11年度	12年度予想
0.5%	0.4%	0.4%

( 7 ) 単独売上原価率

10年度	11年度	12年度予想
27.2%	25.0%	26.0%

( 8 ) 単独外国人持株比率

10年度	11年度
9.9%	10.4%

( 9 ) 単独従業員数の推移

10年3月末	11年3月末	12年3月末
4,733人	4,678人	4,659人

## 開発状況一覧

2000年5月

ステージ	開発番号	一般名 / 製品名	薬効 / 申請時期	自社・導入	製品特徴・上市時期
申請中	TTC-909	アルテオン注 (クリンプロスト)	末梢循環改善剤 (95年9月)	帝人共同	慢性動脈閉塞症(閉塞性血栓血管炎:パージャー病、閉塞性動脈硬化症)における皮膚潰瘍ならびに安静時疼痛の改善剤として申請。 パルクスなどのPGE1製剤の無効例に対しても有効率が高い。現在追加比較臨床試験中。
	ST-630	ホーネル錠 (ファレカルシトリオール)	慢性腎不全など (97年2月)	住友製薬共同	活性型ビタミンD3誘導体。従来の活性型ビタミンD剤に比べ作用が強い。 慢性腎不全に伴う二次性副甲状腺機能亢進症等を対象に申請。2000年承認見込み。
	TS-110	ロルカム錠	抗炎症剤 (97年3月)	ニコメッド オーストリア社	非ステロイド性抗炎症剤。短時間作用型で、鎮痛作用が強力。 適応症:慢性関節リウマチ、変形性関節症など。2000年承認見込み。
		クラリス	ヘリコバクター・ピロリ除菌 (99年2月)	ダイナボット・ 武田共同	ヘリコバクター・ピロリ除菌の適応拡大として申請。 武田のランプラゾールとアモキシシリンとの3剤併用。2000年承認見込み。
		クラリス	ヘリコバクター・ピロリ除菌 (99年8月)	アストラ・協和 共同	ヘリコバクター・ピロリ除菌の適応拡大として申請。 アストラ社のオメプラゾールと協和発酵のアモキシシリンとの3剤併用。現在、アストラ社で臨床試験準備中。
P-	KE-298		抗リウマチ剤	自社	自社開発の新規抗リウマチ剤。炎症反応の引き金となるインターロイキンの産生を抑える。安全性の高い抗リウマチ剤として期待できる。2000年申請予定。

適応拡大

ステージ	開発番号	一般名 / 製品名	薬効 / 申請時期	自社・導入	製品特徴・上市時期
P -	NE-100		精神分裂病治療剤	自社	シグマ受容体遮断作用が強力で選択性にも優れている。陰性症状の改善作用も期待される。海外(英国)を優先。英国でP - 実施中。
	MCI-225		抗うつ剤(SNRI)	三菱東京製薬共同	抗うつ剤。セロトニン、ノルエピネフリン再取込阻害作用を有し、明確な抗うつ効果を示す。効果発現が早く切れ味がよい。既存薬に比べ抗コリン作用がなく副作用が少ない。P - 成績解析中。

(1) ロンドン支店の現状(設立 97年8月)

NE-100のP - 試験を実施している。TSK-204のP - 準備中。その他数品目を計画中。(TSK-204:抗リウマチ剤/協和発酵共同)

(2) ニュージャージーオフィスの現状

近い将来、日米欧3極同時開発の米国拠点とするためにニューヨークに98年4月オフィスを開設した。

今後は、日本における市場の大幅な拡大は見込めないことから、欧米における医薬品承認取得は必須となりつつある。このため、欧州に続き米国においてもそのための拠点をつくることにした。

今年4月より、ニュージャージーへ移転すると共に人員を2名に増員し、米国における臨床試験の実施および承認取得のための種々の調査を実施中。

(3) ABT-773について

耐性の肺炎球菌、インフルエンザ菌に強い抗菌力を有するケトライド系の抗生物質で、アボット社と共同で開発中。海外では現在P - 段階にあり、国内においても海外データ利用のためのブリッジング試験を準備中。